

野木沢

自治センターだより

平成27年12月号

◇編集と発行 野木沢自治センター

電話 26-4939

FAX 26-3135

◇発行責任者：センター長

二瓶 匡

昔ばなし（民話）は伝統文化の宝物

ばあちゃんの昔ばなしを聞いて育った私ら中高年。昔ばなしの底流にある道德と、善と悪を定義づけずに、やんわりと悟らせる話法はどんな道德教本よりもすぐれている。

そこには、押しつけの教育や、国家の史観も入り込まず、ましてや宗教的な独善性をも排除している。何べん聞いても飽きなかった昔ばなしが、今は日常の生活から遠ざかり、子ども達の視野の中にも存在しなくなってしまったが、心ある「語り部」のみなさんが民話を次の代へつなごうとたゆまぬ活動を行っている。



先月のミニディー「のぎさわの会」は、大玉村の語り部・後藤みづほさんから安達太良地方に古くから伝わる民話を聞いた。

「むか〜し、むか〜し、あるところにな〜・・・」で始まるおなじみのフレーズ。物語が進むにつれて次の展開が気になり、身を乗り出す聞き手。善良だった人が、ほんの気の迷いから悪人に変貌するが、物語ではこれを打ちのめしたり、破壊したりはしない。悪行を自ら悟り、わが身を悔い、鳥獣に身をやつして懺悔の旅に立つ。民話はどの物語も人の命、生き物の命を粗末にしない。それは、破壊し尽くして勝利するという現代の感覚に警鐘をならしているように思える。

語り部・後藤みづほさんは、あだたら県民の森近くで「森の民話茶屋」を経営している。八月に野木沢料理教室の移動研修で、この民話茶屋を訪れた。



ふるさと民話を4編ほど聞いて、次は地産地消の手づくり伝統料理をいただく。その品数の多さには驚く。食後は、「遠藤が滝」から引き込んだ水で煎れた抹茶、コーヒーを楽しむ。これで料金が1,100円というからまたまた驚き。営業は11月末までで、来年4月下旬にオープンする。後藤さんは言います。「先祖が残した民話は、汗と涙と笑いを煮詰めた一滴です。宝物の民話で“心”を癒し、とっておきの料理で“身体”を癒してください」と・・・。

